

1P07

保育所等における従来の感染症と COVID-19感染症の予防対策の比較（１） -管理職が認識する現状と課題-

宮崎 つた子¹、鷺見 裕子²、川瀬 浩子¹

¹ 三重県立看護大学

² 高田短期大学

【目的】

保育所等に勤務する管理職が認識する従来の感染症とCOVID-19感染症の予防対策の比較から、その現状と課題を検討した。

【方法】

A市公立保育所管轄の行政に研究の趣旨を説明し承諾を得て関係施設へ配布を行った。方法は、A市公立保育所等に勤務する管理職に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査期間は、2020年7月27日～8月31日である。調査項目は、対象の属性、従来の感染症対策とCOVID-19の感染対策に関する項目等により構成した。収集したデータは単純集計、 χ^2 検定、ウィルコクソンの符号付順位検定を行った。自由記載は内容を整理した。倫理的配慮は、研究の趣旨等を紙面に示して同意を得た。なお、本研究は、所属機関の倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。

【結果・考察】

対象者は、A市公立保育所20施設と認定こども園5施設に勤務する管理職25名であった。園児数は50人以上～150人未満で56.0%、50人未満が20.0%、200人以上は16.0%と園児数にばらつきがあった。対象者の年齢は40代72.0%、50代68.0%、管理職年数は1～5年が64.0%で1番多かった。従来の感染対策とCOVID-19の感染対策に関する項目の比較では、「感染症対策の実施の有無」、「ガイドラインやマニュアルの活用」等に差はなかった。また、「感染源・感染経路の遮断が難しい」、「感染対策の基準が不明確」、「感染の拡大を止められない」、「感染対策に対する職員の意識の違いに困ったことがある」の項目では、従来の感染対策に比べてCOVID-19の感染対策の方が有意に難しさを感じていた。今までと異なる感染症対策の工夫は25名全員が「工夫した」と回答した。その内容は、「消毒の徹底」、「持ち物の置く場所の工夫」、「集団活動の内容の変更」、「園行事の変更」等であった。また、工夫する上で困ったことは、「園児の遊び場面」、「園児の保育や介入場面」など、園児の発達段階や園児の行動で距離を保つことの難しさを感じていた。保育所等では、感染予防対策で様々な工夫がなされているが、保育内容や場面では、園児とのソーシャルディスタンスをとれない悩みや園児に必要な介入場面での課題があげられていたと考える。また、職員間での意識の統一など、管理職としての悩みや課題も感じていると思われる。

1P08

保育所等における従来の感染症と COVID-19感染症の予防対策の比較（２） -保育職が認識する現状と課題-

宮崎 つた子¹、鷺見 裕子²、川瀬 浩子¹

¹ 三重県立看護大学

² 高田短期大学

【目的】

保育所等に勤務する保育職が認識する従来とCOVID-19の感染症の予防対策の比較からその現状と課題を検討した。

【方法】

研究の依頼手続き、研究方法、調査期間、調査項目、分析方法、倫理的配慮は第1報と同じである。対象はA市公立保育所等に勤務する保育職である。

【結果】

対象者はA市公立保育所20施設と認定こども園5施設に勤務する保育職475名であった。園児数は第1報同様にばらつきがあった。対象者の年齢は20代23.2%、30代25.7%、40代22.3%であり、クラス担任は65.5%、非担任23.1%で、雇用形態は正規職員48.8%、非正規職員41.3%であった。勤務年数は10年未満35.6%、10～20年未満38.3%であった。従来とCOVID-19の感染対策に関する項目の比較では、「感染症対策実施の有無」、「マニュアルの有無」には有意差はなかったが、他の項目ではCOVID-19の方が有意に高かった。「感染源・感染経路の遮断が難しい」ではCOVID-19の方が難しく、その内容として「感染対策の基準が不明確」、「子どもを離して保育が難しい」、「感染拡大を止められない」と感じていた。さらに、「対策を相談できず困った」、「対策に対する職員の意識の違いに困った」、「対策実施にあたり理解が得られない」、「対策の提案や助言が十分できない」の項目で、従来に比べてCOVID-19の感染対策で有意に困難を感じていた。これらは内容項目の結果から他職種や管理職、保育職員間の関係性や認識の違いが一因と考えられた。また、「対策が継続されない」、「対策の提案や助言をする時間が持てない」、「対策マニュアルの活用ができてない」と捉えていた。今までと異なる感染症対策の工夫は437名が「工夫した」と回答し、その内容は「手洗いと人・物・場の消毒の徹底」、「保育の環境や活動での三密回避」等であった。また、工夫する上で困ったことは「対策による保育の人員と時間の不足」、「園児の密回避の困難さ」、「保護者との感染対策の共有」等があげられていた。

【考察】

保育職員は様々な感染対策に取り組む中で、従来と比べてCOVID-19感染症対策の困難さを強く感じていた。保育所等では職員間の予防対策への情報共有や意識統一の必要性と、対策による負担増の中での保育の質の確保が課題と考えられる。